

## オープン市場短信 (2018年9月)

2018.9.12

### ◆ 8月のCP市場動向

8月末のCP市場残高は、前年同月比+3兆1,014億円の19兆3,813億円となり、前月に続いて高水準を維持している（前月比+606億円）。業態別の残高を前月対比で見ると、一般事業法人の資金需要は旺盛で、8兆4,587億円（+2,958億円）と増加した。一方、その他金融は8兆3,846億円（△1,227億円）、金融機関は1兆4,439億円（△181億円）、ABC Pは1兆941億円（△944億円）とそれぞれ減少した。高水準の市場残高の影響を受け、発行レートは今月もやや上昇地合いとなり、深いマイナスでの出合いは減少し0%中心の出合いとなった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0.000%割れ 一般事業法人（a-1格）0.000%割れ～0.002%

その他金融銘柄（a-1格）0.000%割れ～0.00295%

### 【業態別残高内訳】

(単位：億円)

業 態	8月末残高	7月末残高	増 減
一般事業法人	84,587	81,629	2,958
その他金融	83,846	85,073	-1,227
金融機関	14,439	14,620	-181
政府系金融	0	0	0
銀行等	3,595	3,930	-335
証券	10,844	10,690	154
ABC P	10,941	11,885	-944
計	193,813	193,207	606

(注：買入消却分含む)

### 【格付け別の発行レート】

#### 8月のCPLレートレンジ

(単位：%)

格 付	1か月	2か月	3か月
a-1+ (一般事業法人)	△ ～ 0.0014%	△ ～ 0.0000%	△ ～ ——
a-1 (一般事業法人)	△ ～ 0.0040%	△ ～ 0.0000%	△ ～ 0.0020%
a-1+ (リース銘柄)	—— ～ ——	—— ～ ——	△ ～ ——
a-1 (リース銘柄)	△ ～ 0.0030%	0.0000% ～ 0.0019%	0.0000% ～ 0.0030%
a-2	△ ～ ケ0.10%	△ ～ ケ0.10%	0.0080% ～ ケ0.10%

## 《CPオペ》

CP等買入オペのオファー額は、月間で合計 6,000 億円（前月のオファー額と変わらず）であった。オペの按分レートは、7日・14日・28日の各回ともに $\Delta 0.001\%$ で高止まりとなった。3回のオペの応札倍率は7月に続き3倍強と高水準となり、ディーラーには相応の売却ニーズがあったと思われる。

### 【日銀 CP 等買入れオペ実績】

(単位：億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
8月7日	8月10日	2,000	6,216	1,965	-0.001%	-0.001%	43.6%
8月14日	8月17日	2,000	6,431	1,941	-0.001%	-0.001%	80.4%
8月31日	8月31日	2,000	6,115	1,985	-0.001%	0.001%	64.5%

## 《ABC P》

ABC Pは、1兆941億円と前月比 $\Delta 944$ 億円減少し、前年同月比でも1、072億円の減少であった。

## 《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると 8 月末時点における発行登録企業数は大塚ホールディングスが新規登録を行ったため、1社増の523社となった。

## 《CP現先市場》

現先(S/N)レートは運用ニーズ強く、マイナス $\sim 0\%$ 近辺での出会いで0%では引き続き買い残り状態となっていた。

## ◆ 9月のCP市場動向

9月のCP発行市場は、中間期末での有利子負債の圧縮目的から、総じて発行が減少すると思われる。一般事業法人の発行動向は、期越え発行を控えショートターム物中心となろう。月末発行残高は、現在事業法人が積極的にCPでの資金調達を行っている事もあり、前年(14兆1,337億円)を上回り、17兆円台前半を予想する。

発行レートは、月末迄のショートターム物については上昇地合いに転じている

が、期越物についてはオペ見合いから一部で深いマイナスレートでの発行が見られるようになった。a-1格の一般銘柄でマイナス～0.005%近辺、その他金融・リース銘柄でマイナス～0.02%台での出合いを予想する。

#### 《C P オペ》

今月のC P等買入オペは、オファー額が各回4,500億円程度となっており、合計1兆3,500億円と前月から7,500億円増加している。4日にオファーされたオペは、按分レートが△0.007%と前回結果から△0.006%低下した。按分レートが大きく流れる予想もあったが、9月末償還の玉が多く持ち込まれたためか、落ち着いた結果となった。11日オファーのオペは当日に500億円増額され、按分レートは△0.016%と低下した。25日の月末スタートのオペでは、対象玉が期越物のみ限定される為、按分レートは更に低下すると思われる。

#### 《C P 現先市場》

C P現先レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出合いであろう。

#### 参考資料 (出所：証券保管振替機構)

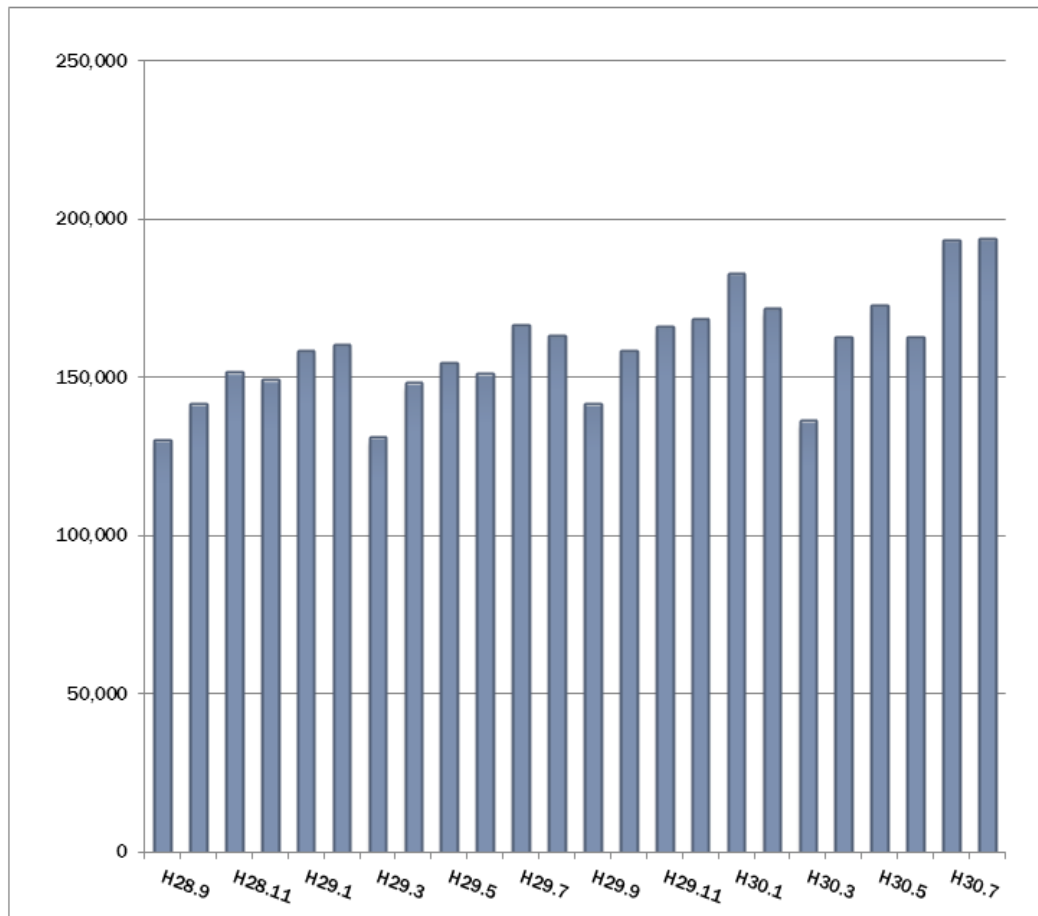
#### 【8月発行残高 上位10社】

(単位：億円)

	発行企業名	8月末残高	7月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	10,539	10,599
2	三菱商事	10,000	9,400
3	三菱UFJリース	7,423	7,306
4	東京センチュリー	6,306	6,311
5	興銀リース	5,500	5,500
6	クレディセゾン	5,190	5,050
7	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	4,512	4,986
8	パナソニック	4,260	3,810
9	J A三井リース	4,160	4,120
10	新日鐵住金	4,120	3,930

【短期社債月末残高】（H28年9月～H30年8月）

（単位：億円）



本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒 541-0043 大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会